

安全安心で暮らしやすい日之出地区

— 住みたくなるまち、住み続けたいまち、住みよいまち 日之出 —

日之出公民館

1 日之出地区の概要

日之出地区は福井市中心部に位置し、東西 1.5km、南北 1.5kmのコンパクトな地区である。

荒川をはじめ、古川・赤川・芝原用水などの川が流れ、緑に囲まれた公園も多く生活しやすい地区である。福井県立病院・福井市保健センター・福井市こども療育センターなどの公共医療機関をはじめ開業医や介護施設も多く、子どもからお年寄りまで安心して暮らせる環境にある。また、こども歴史文化館などの文化施設や学校・こども園・保育園・児童館などの教育施設にも恵まれている。

「日之出」の名称は、かつて福井城下から四方に通じる7つの城門のうちの一つが外堀の東側にあり「日出御門」と呼ばれたことに由来する。この日出御門は柵形（小広場）を挟んで二重の門となり、これを「中島二つ門」とも呼んだ。また、日之出地区には永平寺に関する歴史的な史跡や地名が残っているのも特徴的である。

令和6年2月現在、世帯数3,318戸、人口7,006人であるが、少子高齢化・人口減少が進んでいる。

2 日之出っ子は日本の宝

— 未来を担う子どもたちを育てよう —

(1) 見守り活動 ～あいさつ運動～



平成13年から登校する児童・生徒たちに、おはようの声をかけをしながら、「あいさつの大切さ」を学んでもらう

ことを目的に長期休業あけの4月、9月、1月の3日間、小中学校の校門付近や通学路交差点等で実施している。市民会議、見守り隊、学校、PTA、交通指導員が中心になり、地区諸団体、地域の方々の協力を得ながら活動を続けている。

(2) 花いっぱい運動 ～チューリップを植えよう～



毎年、まちづくり協議会ふれあい委員会が中心になり、球根の植え付けから水やりなどの日常管理まで、地区の人たちの協

力を得ながら実施している。満開のころには地区の多くの人たちに大変喜ばれている。

(3) イルミネーション事業

新型コロナウイルス感染症により、地区事業が中止になるなど地区活動に大きな影響が出た。「少しでも出来ることから」を合言葉に、その年の12月に始まった「イルミネーションフェスタ」事業は、地区の人たちの気持ちを明るくし、楽しんでいただけるよう工夫を凝らしながら、人と人が触れ合わず、誰もが、いつでも観覧できるよう期間を設け実施している。令和3年7月からは、「七夕イルミネーションフェスタ」も実施し、地区の園児や子どもたち、来館する多くの人などに、短冊に願い事を書いて飾ってもらうなど夏の事業として定着している。

平成28年から行っている四ツ井公園の桜のライトアップ事業「さくらフェスタ」と合わせ、年間3回の事業を実施している。



(4) クリーン大作戦 ～まちを美しく～

春と秋の2回、子どもたちに奉仕活動の意義と大切さを体験させるとともに、ボランティア精神を培うことを目的に実施している。青少年育成会・ひのでっころぼ・まちづくり協議会・地区団体の共催で、通学路と小学校に隣接する公園の清掃活動をしながら危険個所の確認も行っている。毎回多くの子どもたちが積極的に参加してくれている。

(5) 河川パトロール ～地域の川を学ぼう～



日之出小学校高学年児童を対象に実施し、区内を流れる荒川、古川、赤川、芝原用水をパトロールして河川の歴史や役割を

学ぶ。同時に、水質調査やごみ拾いを実施し環境に対して考える機会を設けている。出発前に事前資料で学習会を行っている。

(6) ウィークデー防災訓練

災害はいつ発生するかはわからず、ウィークデーの災害弱者しかいない時に発生する確率が高い。そのような時、区民一丸となって「一時避難所」への避難、安否確認が出来る訓練を行う必要があるため、平成 28 年に、日之出地区自主防災組織連絡協議会が中心となり「ウィークデー避難訓練」を実施した。この避難訓練の反省会において、小学生が下校途中（学校の責任範囲外）、大震災に遭遇した時に区民で児童を守るようなシステムを確立するため、下校途中に大震災が発生した場合を想定した「ウィークデー防災訓練」を実施する事とした。この避難訓練については全国どこにも事例がなく、訓練実施については NPO 法人「まちの防災研究会」のアドバイスを受けた。学校との協議を重ね、平成 29 年 10 月に児童の下校時間に合わせた第 1 回目の「ウィークデー防災訓練」を学校、PTA、公民館、各団体の協力を得て実施した。

毎年、前年の反省点を踏まえ、児童の安全を第一に考え実施している。第 1 回目に訓練に参加した児童はすでに社会人になっており、訓練時には助けられる立場であったが災害弱者を助ける立場になっている。今後、この防災訓練を継続して実施していくことにより、災害発生時の対応力、団結力が強い日之出地区の構築につながる。



3 交流事業

— 箭田まちづくり推進協議会との交流 —

平成 16 年、福井市で開催された「住みたくなるまちづくり全国交流大会」の地域間交流において、箭田まちづくり推進協議会（岡山県倉敷市真備町）と



の交流が始まった。翌年より隔年ごとに、お互いの地区を訪問し、互いに地区の発展につながるよう交流や意見交換等を行ってきた。以降現在に至るまで、子どもはスキーやキャンプなど、大人は防災や見守り活動などにおいて交流を深めてきた。その間、平成 30 年には箭田地区に大規模



な災害をもたらした西日本豪雨や新型コロナウイルス感染症により交流が中断されたが、交流方法を変えて、今までとは違った観点で交流を続けている。

4 おわりに

日之出地区は犯罪や交通事故も少なく安全安心なまちを自負している。ひのでふれあいフェスタ（夏まつり・秋の文化祭）や防災訓練・区民体育祭など地区の行事に対しての参加者も多い。しかし、本地区においても少子・高齢化や本格的な人口減少社会が到来し、地域の活力の低下や大規模災害時における被害の拡大等が懸念されている。そのため、それに応じた持続可能で活力あるまちづくりに取り組んでいく必要がある。今後、地域コミュニティの形成を目標として住民相互のつながりを回復させるためにも、地域活動に誰もが気軽に参加できる環境を整える必要があるとともに、次世代を担うリーダーの発掘・育成が急務である。

地域の宝であり将来を担う子どもたちの健全育成や若い世代にとって魅力ある行事への取組等に力を入れていきたい。

家庭・地域・学校が連携して、子どもたちに関わる事業が数多く行われ、日之出の将来を担う子どもたちに対して、地域の方々の温かい愛情と大きな期待を感じることができる。

今後も、充実した活動により安全安心で住みよく、ますます活力ある地区になることを期待している。